

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 10 ACTA UROLOGICA JAPONICA October 1987

泌尿器科紀要

第33巻 第10号 1987年10月

第36回 日本泌尿器科学会中部総会

泌尿器科における医療経済学の意義 —シンポジウム“泌尿器科疾患のもたらす国家・社会的損失”の司会にあたって—	司会のことば 友吉 唯夫…1515
医療経済論序説：医療における費用便益分析について	阪本 靖郎…1518
上部尿路結石症の国民経済に与える影響	山本 啓介・ほか…1523
国民医療費と泌尿器科疾患に対する公費負担の現況	高杉 豊…1527
泌尿器科疾患の家計に及ぼす影響	上田 公介・大田黒和生…1531
透析療法と腎移植—医療経済と患者の生活の質における比較—	田島 惇・ほか…1536
前立腺疾患の国家社会的損失と集団検診の経済的効果	中尾 昌宏・渡辺 決…1542
前立腺集団検診と前立腺癌早期発見	片山 喬…1547
泌尿器科疾患のもたらす国家・社会的損失 —特に疫学の立場からみた対処の戦略について—	平山 雄…1550
社会保障国家英国における医療費の現状	郡 健二郎…1556
泌尿器科疾患のもたらす国家・社会的損失についての二、三の意見	吉田 修…1560
実験的温阻血腎における尿および腎組織中 γ -GTP の研究	沼 秀親…1562
尿中 NAG および γ -GTP 活性からみた CDDP 腎障害	高橋 卓・ほか…1569
尿路悪性腫瘍における human-tumor clonogenic assay を用いた 抗癌剤感受性試験の検討	打林 忠雄・ほか…1575
血清 Tissue Polypeptide Antigen の尿路性器癌における 腫瘍マーカーとしての意義 —特に腎癌、前立腺癌における 他の腫瘍マーカーとの比較検討—	山崎 清仁・ほか…1581
褐色細胞腫 —当教室における22例23手術の検討—	奥山 明彦・ほか…1590
電解式組織血流計を用いた膀胱局所血流測定の試み	川嶋 秀紀・ほか…1603
除脳大を用いた骨盤および下腹神経切断時の排尿動態に関する研究	福田 孝…1608
外傷性脊髄損傷患者における血清 β_2 -マイクログロブリン —腎機能スクリーニング検査としての有用性—	斉藤 政彦・ほか…1618
性生活調査による本邦男性の性機能の研究 —おもに加齢との関係について—	青木 正治・ほか…1623
Jonas prosthesis 陰茎内挿入手術による器質的インポテンスの 治療	青木 正治・ほか…1632
膀胱、前立腺全摘術後の器質的インポテンスに対する プロステンス植え込み手術経験	岡田 裕作・ほか…1640
外傷性尿道離断に対する内尿道切開術	荒井 陽一・ほか…1647
三品泌尿器科医院開設後2年間における外来および入院統計	三品 輝男…1653
三樹会病院における臨床統計(第6報) 1986年度外来新患統計	丹田 均・ほか…1662
盲管重複尿管の1例	高橋 剛・ほか…1669
指輪による陰茎絞扼症の1例	加藤 良成・ほか…1672
両側性精細胞性睾丸腫瘍の1例 —本邦集計 115例の統計的考察—	米津 昌宏・ほか…1676
前立腺症による排尿困難に対する α -遮断剤(塩酸ブナゾシン)の効果 —二重盲検比較試験による検討—	熊本 悦明・ほか…1681
モノクローナル抗体を用いた酵素免疫測定法(IQ(Bio)PAP-AELIA キット)による前立腺性酸性フォスファターゼ測定の検討	越田 潔・ほか…1703
経尿道的手術症例における尿路感染症の検討	村松 弘志・ほか…1708
Cefbuperazone による急性単純性膀胱炎患者の <i>E. coli</i> の 形態変化について	和志田裕人・ほか…1712
複雑性尿路感染症に対する Fortimicin® と Cefotax® 併用療法の臨床的評価	坂下 茂夫・ほか…1718
男子非淋菌性尿道炎の実態と Minocycline による治療効果 —クラミジアまたはウレアプラズマ感染症について—	安川 明廣・ほか…1724
膀胱癌、腎細胞癌に対する UFT の使用経験	中神 義三・ほか…1728

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。
例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
 3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
 4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重	新谷 浩
吉田 修(主幹)	
- ミングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,2,7)}, 田中^{1,2,10)}によると)
- 雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。